

## コミュニティ・スクール（学校運営協議会）4年目の取組

令和2年度、朝来市の小中学校は、「学校運営協議会」を設置し、コミュニティ・スクールとしてスタートした。そして、4年目を迎えた令和5年度の取組をまとめた。

令和の時代、「地域と共にある学校」への転換が必要となる。そこで、学校における地域住民との連携・協働体制を組織的・継続的に確立する観点からコミュニティ・スクールの第一歩として、「ふるさと教育」の充実を掲げた。4年目も、多くの地域の方々に関わっていただき、取組を行った。3年間の取組の課題に対し、改善も検討しつつ取り組みを進め、4年目も地域への活動の浸透を図ったが、まだまだ知らない方も多く、浸透しきれていない点が挙げられる。しかし、運動会での「扇子踊り」の実施や教育講演会等にも地域の人に参加していただく等、少しずつ前進できた4年目であった。



### 【4年目の課題への取組と対応策】

- これまで区長会会長の方に会長職をお願いしていたが、毎年変わる方からでは、大変だろうという意見もあり、これまでの様子を知っておられる中尾さんに会長職をお願いする点や若い役員をとということから、PTAの方からの役員を増やすなどの変更を行った。会が少しでも活性化していく手立てを講じていただいた。また、コロナの5類移行を受け、行事等の人数制限をなくする等の手立ても行ったことにより、少しずつ地域の方等にも参加していただくようになった。
- 2学期には、活動の参加を呼びかける案内等も発送したり、学校だよりにQRコードを載せて、ホームページ等での発信も地域の方にも知ってもらうために努めてきた。まだまだ地域の方への啓発は課題として残っているので、来年度は4月よりさらに積極的にしていきたい。
- 本年度も4回の会議を通して、様々な意見交換ができ、学校と地域が共につながり、活動していく内容について話し合えた点は良かった。初年度の課題となった委員の構成には3地域（梁瀬・与布土・粟鹿）からの選出や若手登用等の意見が反映でき、男女比も同じにするなど少しずつ改善を図ってきた。

### 【令和5年度の学校運営協議会のメンバー】○内は委員在籍年数

- 会長 中尾 盛雄(粟鹿地区自治協代表)③ ○副会長 藤田 岸夫(山東町区長会長・学校後援会長)①
- 委員 岩村 年隆(梁瀬地区自治協代表)② 馬袋 真紀(与布土地区自治協代表)③  
衣川 桂子(民生児童委員代表)① 岡林 由佳(主任児童委員)①  
中嶋 伸介(P T A会長)① 黒田 由美(P T A代表)① 安部 順子(P T A代表)①  
羽瀧 義夫(校長)④ 吉田 博幸(教頭)② 小田垣清美(学校(庶務))②

### 【令和5年度の学校運営協議会の日程】

- 第1回会議・・・令和5年5月18日(木)19:00 学校の経営方針の承認、活動計画等
  - 第2回会議・・・令和5年6月16日(金)13:30 授業参観、児童の様子について等
  - 第3回会議・・・令和5年10月12日(木)19:00 活動の中間報告、情報交換等
  - 第4回会議・・・令和6年2月9日(金)17:00 学校評価、来年度に向けて等
- ※各会議の詳細については、会議の記録をこの後の資料に添付している。

### 【学校運営協議会の成果と課題】

- 1年から6年までの農業体験(3年目実施)をはじめ、地域の方等の外部人材を活用して、ふるさと教育は充実した活動が行えた。保護者アンケートでの「地域と共にある教育を推進している」の項目が昨年度より大幅によくなったことや地域の方との交流を通して、地域のふれあいにつながり地域行事等の参加も増えた点は成果である。
- 児童等へのアンケートでもほとんどの子どもたちが、とても楽しく取り組めたと回答している。
- 今後は、保護者の方にも広く知ってもらう意味でも、見てもらう機会や参加してもらう機会を早い段階で設け、保護者や地域の方への理解を求めていくことに努めたい。
- また、委員の選考についても様々な意見が出て、その意見を生かし、学校運営協議会の熟議がさらに深まるように努めていきたい。また、ふるさと教育以外の活動も新規で切り拓き、しっかりと継続していく体制とさらなる充実できる体制を整えていきたい。